

# 小川洋子の作品と「女性に許された領域」

## 小川洋子の作品と「女性に許された領域」

Ogawa Yoko's Novels and "the Territory Allowed for Women"

文学研究/論文

地域キュレーションコース

湯上谷 ひなこ

Yugamidani Hinako

### 研究目的

サンドラ・ギルバートとスーザン・グーバーは『屋根裏の狂女―ブロンテと共に』の第一章「王妃の鏡」において、童話「白雪姫」で王妃が白雪姫を殺害するために起こした行動が、どれも女性だからできたことであり、王妃は「女性の技」を利用していると論じている。本研究では、「女性の技」をより広義にとらえ、「女性に許された領域」と称し、小川の作品に登場する女性が「女性に許された領域」をどのように利用しているのかを分析した。

### 作品分析

「妊娠カレンダー」では、主人公の「わたし」は、嫌悪感を抱く姉の赤ん坊を攻撃するために家庭内の料理を利用している。「口笛の上手な白雪姫」では、公衆浴場で働く小母さんは、子どもをあやすことで、自分が手に入れられなかった女性としての幸せを体験しながら、自分の中にある悪意と戦っている。「亡き王女のための刺繍」では、りこさんは刺繍によって自分の存在を示し、さらに子供服の刺繍に子どもに対する悪意を込めており、「私」は過去の自分と決別するために刺繍を利用している。「刺繍する少女」では、体が弱く生活に制限がある「彼女」が、刺繍をすることで苦しみを吐き出しながら自分を社会から解放し、楽にしている。

### 結論

本論で取り上げた小川の作品の女性たちは、「女性に許された領域」を利用して、自分の中の悪意や苦しみ、理想と向き合っている。彼女たちにとって「女性に許された領域」は、自分にできることであり、苦しみを抱きながらも生きるための手段である。彼女たちは自分の中では消化しきれない感情や願望と折り合いをつけ、自分が置かれた環境のまま、毎日を生きているのだ。